京 機 短 信

No.244 2014.12.05
京都大学機械系工学会（京機会）　tel.& Fax. 075-383-3713
E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp
URL: http://www.keikikai.jp
編修責任者　久保愛三

韓国社会の理解と大韓民国の使命

（4） 李承晩と 金九、そして建国 ①

パク　チョン　キュウ （ 2002 博卒）

前回、韓国での左翼と右翼の始まりは、連合軍の信託統治に賛成するか反対するかによって区別されるという話をした。 韓国半島の北では左翼の共産党体制が成立し、南では右翼の民主主義体制が成立する。だが、簡単な話ではない。つまり、韓国半島に２つの国が成立することを意味しているからだ。

理想的には国は一つであるべきだし、その国は、国民ひとりひとりが身分の差がなく本人の意見を自由に言える国であるべきだ。だが、すでに北にはソ連の支持をうける政治集団が成立していた。その状況の下、南だけでも自由民主主義の国を建国するべきだという意見と、南だけの単独政府に反対して北の共産党と妥協し、一つの国になるべきだという理想論を話す人がいた。前者が李承晩（イ・スンマン）であり、後者が金九（キム・グ）である。二人とも独立運動をし、また二人とも信託統治に反対する右翼運動を代表する人である。兄弟のように親しい関係である二人は中国上海にある大韓民国臨時政府の大統領として活躍をした。

李承晩と金九（右の眼鏡をかけた人物）

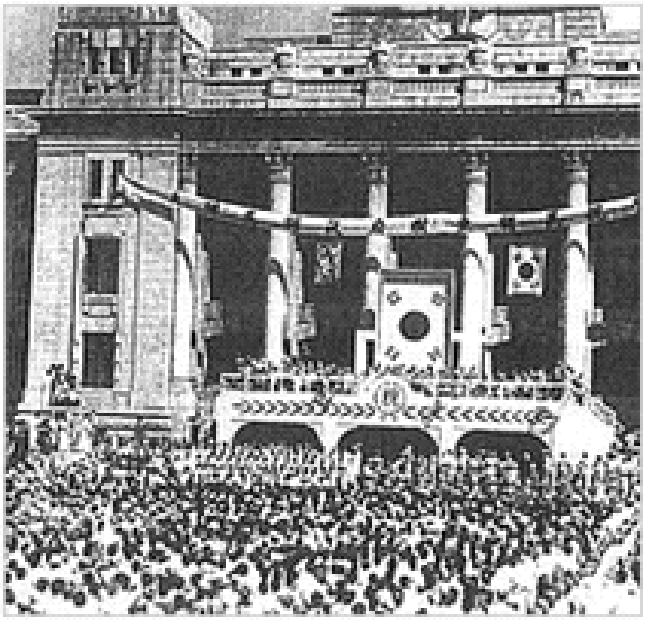
大韓民国臨時政府は、朝鮮の独立運動の中で大事なことである1919年3月1日の『独立万歳運動』をきっかけとして生まれた。すなわち、『 独立万歳運動』の後，独立運動拡大のため、中国の上海に大勢の独立運動家が集まって同年4月10日、大韓民国臨時政府の樹立を宣言した。大韓民国臨時政府の初代大統領は当時アメリカで独立運動をした李承晩であり、1925年3月まで中国で活動をしていた。 金九は1926年から1927年、また 1940年から1947年まで臨時政府の大統領であり、大韓民国臨時政府の基本路線を自由民主主義として守り続けた。

だが、李承晩は国際政治の版図に詳しく外国との外交を重大視する冷静な人であったが、金九は剛直な性格の民族主義者であった。二人は建国時から全然違う道をとった。1946年6月李承晩は南だけでも政府を作るべきだという発言をし始めた。金九とアメリカの軍政はソ連と共産党と妥協することができると思った。李承晩だけが違った。1946年12月李承晩はアメリカへ行って米政府を説得した。また1947年3月にはトルーマン・ドクトリン(Truman Doctrine)を発表した。それは当時、トルコとギリシャへ進出する動きを見せていたソ連に対し、共産主義を封じ込める政策であった。

金九と金日成

結局、韓国でもソ連との妥協ができないと分かった米国は、1947年8月12日、米ソ共同委員会をやめ、韓国の問題を国際連合（UN）に持ち込んだ。1948年1月入ると、北のソ連軍政は国連韓国委員団の入国を拒否した。1948年5月10日、国際連合（UN）が南を韓国半島で認める唯一の国とし、初めての総選挙が実施さ

れた。そして 1948 年 8 月 15 日 、大韓民国が建国された。



1948 年 8 月 15 日の韓国建国式

（つづく）

京機短信への寄稿、　宜しくお願い申し上げます

【要領】

宛先は京機会の e-mail：　jimukyoku@keikikai.jp　です。

原稿は、割付を考えることなく、適当に書いてください。　MS ワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。　割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。宜しくお願い致します。

蒸気タービンの歴史（その 19）

The History of Steam Turbine

藤川 卓爾 （昭和 42 年卒）

転載元：火力原子力発電技術協会，
「火力原子力発電」，Vol.61，No.9，pp.36-61,(2010-9)

9.2．蒸気タービンの高温化のための開発の歴史[29]

9.2.2　構造の開発

蒸気タービンの高温化に当たっては，材料の開発とともに，内圧応力や遠心応力，熱応力などの高温部の応力を低減するための構造や低温蒸気による高温部の冷却構造が開発された。

初期の蒸気タービンは 1 重車室構造であったが，蒸気条件の向上とともに 2 重車室構造が採用された。2 重車室構造はタービン入口部の高温高圧蒸気を内車室に納め，タービン翼列での膨張によって温度，圧力を低下させた蒸気を内車室と外車室の間に充満させることによって，内車室，外車室それぞれの内外圧力差や温度差を低減して，内車室，外車室それぞれの負担を軽減するものである。さらに蒸気タービンで一番厳しい蒸気条件にさらされる調速段はノズル室構造を採用することにより内車室の負担を軽減することが行なわれている。

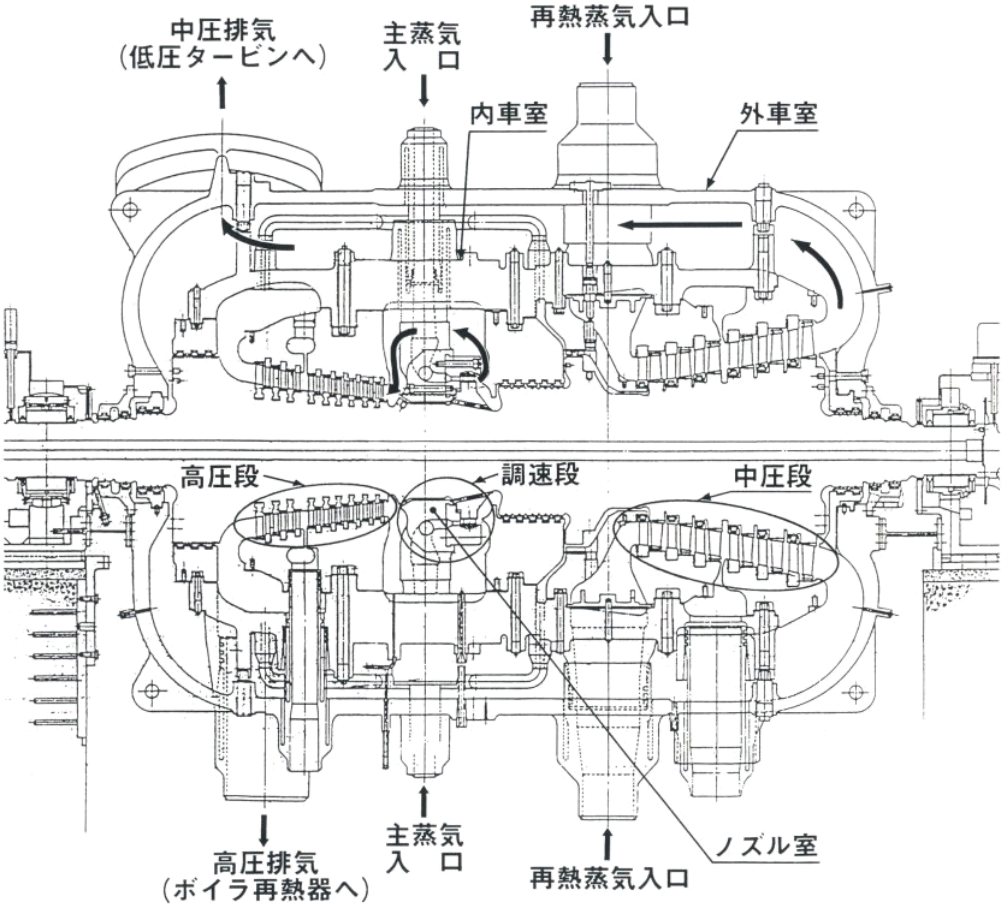


図 38　2 重車室構造の高中圧タービン　［提供］　三菱重工業(株)

図38に典型的な2重車室構造の高中圧タービンを示す。このタービンは亜臨界圧の蒸気条件16.5MPa(2,400psig)，566/538℃および超臨界圧の蒸気条件24.1 MPa(3,500psig)，538/566℃に使用されている。主蒸気は車室のほぼ中央部から導入され，調速段のノズルを通って調速段動翼を駆動する。調速段を出た蒸気は内車室とノズル室の間の空間を通って反転し，高圧段に導かれる。高圧段を出た蒸気は高圧排気口を通ってボイラの再熱器へ導かれる。ボイラで再熱された蒸気は車室の中央部の再熱蒸気入口から中圧段に導かれる。中圧段を出た蒸気は内車室と外車室の間を通って外車室の上部に設けられた中圧排気口からクロスオーバ管を通って低圧タービンに流入する。この構造で調速段のノズル室と内車室はそれぞれ調速段出口蒸気と中圧排気によって外面を冷却される。これにより外面の温度は低下し，ノズル室と内車室の平均温度は低下する。

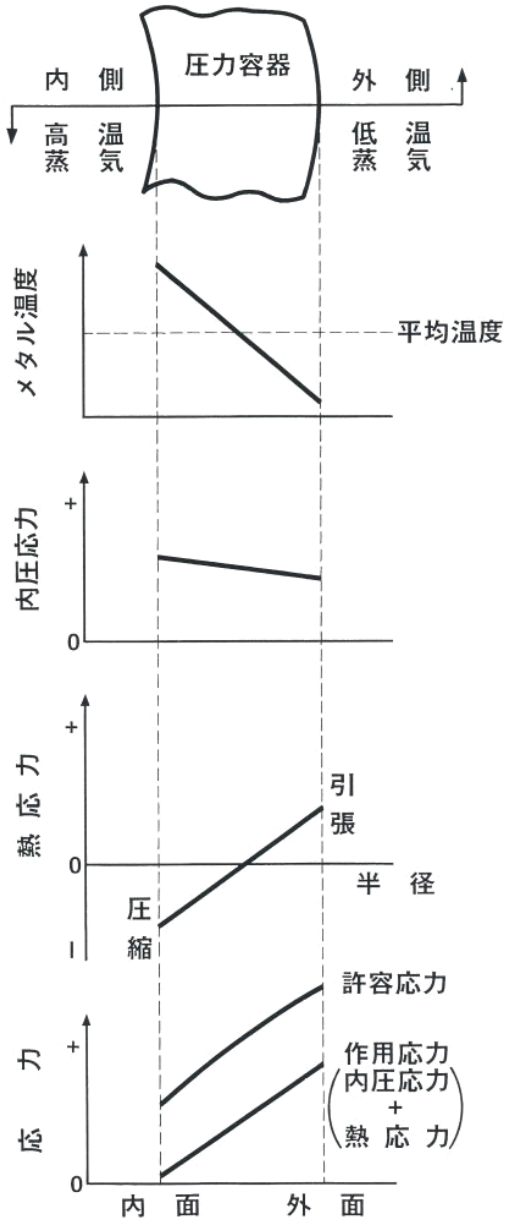


図39　マスフロークーリング

一方，内外面の温度差によってノズル室と内車室には熱応力が生じる。この熱応力は内面が圧縮，外面が引張りである。内圧応力(弾性応力)は内面から外面までほぼ一様の引張り応力となるので，熱応力と内圧応力の合成応力は図39に模式的に示すように内面側で小さく，外面側で大きな引張応力となる。材料の許容応力は温度の高い内面側で小さく，温度の低い外面側で大きくなるため，内面側から外面側まで発生応力が許容応力に対してほぼ同様の余裕を有することができる。この構造の設計思想はウエスチングハウス社で考案されたもので，マスフロークーリングと名付けられ多くのタービンに適用された。

マスフロークーリングでは蒸気の主流の反転によって圧損を生じるので，最近の設計では，ノズル室や内車室などの静止部品に対して，より応力を低減する構造や，少量の冷却蒸気の流れで温度を低減する構造を採用することや，より高温強度の高い材料を使用することによって，マスフロークーリングによらなくても発生応力が許容応力に対して十分な余裕を有するようにしている。

中圧タービン入口部では，図40に示すようにロータの第1段動翼翼溝部に冷却蒸気通路を設けて，動翼前後の圧力差を利用して，高圧タービンから導入された低温

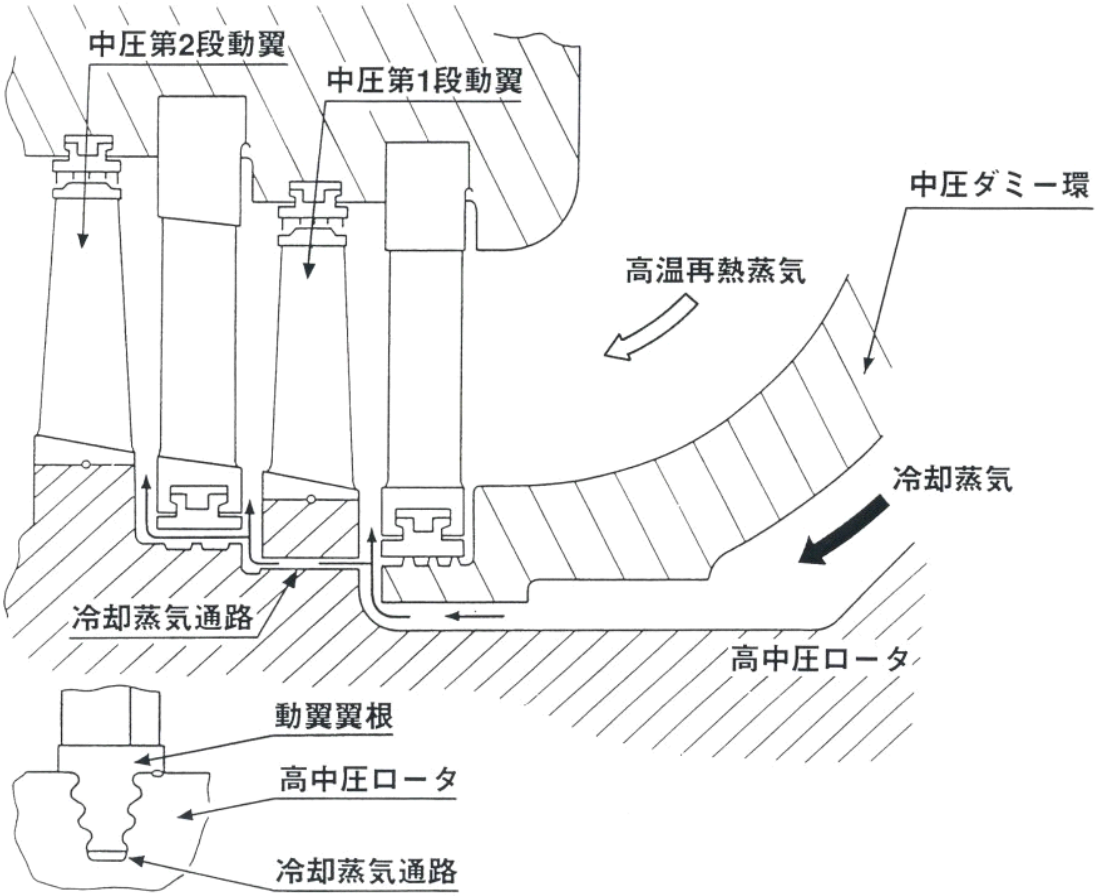


図 40　中圧タービンロータ冷却装置　　[提供]　三菱重工業(株)

の蒸気を流すことによりロータを冷却している。これにより中圧入口部のロータ温度を下げることができる。

1980 年以降の大容量 USC タービンの開発に伴って，タービン各部に対して種々の構造が開発された。基本的な考え方は，超高温部の冷却による温度，温度差の低減と内圧応力，遠心応力，熱応力等の応力低減によるクリープ強度の向上である。また熱応力を低減するために，フレキシビリティを有する構造や，部品内部の温度差を低減する構造が開発された。

(つづく)

昆明滞在記　　その五

1976 年卒　田中　庸彦

９月１３日（土）晴れ

　雲南省で昆明からの遠出先は、石林、大理、麗江、香格里拉（シャングリラ）、西双版納（シ―サンパンナ）、梅里雪山、と 5 か所の世界遺産を含めて事欠かない。あくびをしても口から漢字が飛び出てきそうな猛勉強が続けられていること自体がいささか不思議であるが、気分転換に外出することにする。ビザ書換えの為、旅券を大学側に預けてしまっているので、昆明から離れて遠くへ行かないほうが良いらしい。異国に足を踏み入れると決まって行くところは、博物館である。今日は、市博物館と省博物館の博物館巡りと決める。

　市博物館内で一番興味をそそられたのが、司馬遷の「史記・西南夷列伝」に載っているもので、それらが展示されていた。

司馬遷在＜史記・西南夷列伝＞中曽経記載国是一個
“耕田．有邑聚”的民族、農業是デン人頼以為生的経済基礎、
墓葬中出土過大量用於農業生産的鋤、斧、・・・

と写真の後方に写っている説明書きに載っている。おおよそ２２００年の時を超えて目の前に現出し、それもわれわれ日本人になじみの深い歴史書に記載されている「農具」とあっては、感動せずにはいられない。

（写真十）

　省博物館に向かう。着いたのはいいがあいにく、新館への文物運び入れ中ということで入館できなかった。この博物館には、親牛が子牛を腹の下に隠し虎からの襲撃を守っている＜牛虎銅案＞という青銅器がある。後に訪れたところですが、「金殿」という道教の寺院内にある西周青銅器博物館に、本物と思われるもの（確認できず）が展示されていましたので、それを掲げます。

（写真十一）
牛虎銅案

西周とは、殷（商）＜最後の王は紂王（ちゅうおう）―　その妻は妲己（だっき）＞を滅ぼした姫氏（きし）が建てた国で、その国が現在の雲南にあったわけではなく、雲南が銅の産地だから、この地にこの博物館があるということでした。

この博物館内を見て回っていると、突如、写真にある酒器が目の前に飛び込んできて、吸い込まれてしまった。

（写真十二）
酒器

中国へ来る直前まで見ていた映画「項羽と劉邦」内で、項羽愛用の酒器として描かれていたものと同じである。「新安での秦軍大量虐殺」「鴻門の会」「咸陽の焼き払い」「楚漢戦争」「垓下の戦い」を、この酒器が見ていたのかという思いの中に漂い、その前にしばらく立ちつくしていた。「虞や虞や汝をいかにせん」と言ってみたいものである。

（つづく）

第16回『池上先生を囲む会』

筆者が、1971年4回生の夏休みを第1回燃焼研OB会としてほぼ現在まで夏合宿が開催されていますが、並行して1999年から年長者を中心として『池上先生を囲む会』を毎年開催しています。
10月4日(土)：午後、佐川美術館、夜・大津プリンスホテル『白鳥』で懇親会。
10月5日(日)　：午前・比叡山延暦寺・根本中堂、昼・坂本名物本家『鶴喜蕎麦』。

今年は、ご夫妻を囲んで総勢14名が集まり、池上先生は脊柱管狭窄症による厳しい下肢痛を抱えながら初日の懇親会、2日目の標高848m山頂に近い比叡山延暦寺・根本中堂（国宝）までお付き合い下さいました。

笑顔の池上先生（79歳）と信子ご夫妻。

世界遺産の比叡山延暦寺・根本中堂は、天台宗の開祖最澄が都の東北の鬼門を護るため、788年に創建し、法然上人、親鸞上人、栄西禅師、道元禅師、日蓮上人など各宗を開かれた宗教的偉人が輩出された我が国仏教の根本道場です。特に、2016年から約60年振りに約10年かけて『還暦』の衣替え改修前にお山に登りま

した。根本中堂の中で法話を拝聴後、本尊・薬師如来坐像の前での護摩行、創建以来1200年灯り続ける『不滅の法灯』を見学。

　坂本名物・名代手打・本家『鶴喜蕎麦』で『鴨なんば・そば(1440円)』昼食。享保初年に当代鶴屋喜八が蕎麦営業を開き、現代まで二百九十年とか。

来年も池上先生ご夫妻と元気な笑顔でお目に掛かれるのを楽しみにしています。

文責：72年卒　岡本雅昭

KEIKI　Music Cafe

ーBEATLES PARTY―　レポート　　北野幸彦（昭和５６年卒）

11月28日（金）19：00　第4回目のMusic Cafe　を開催しました。
Music Cafeは関西支部のカフェ活動のひとつで、昨年から始めた企画です。最初は、音楽好きで集まってみたらおもしろいかも、という発想でしたが、任命された幹事が折角の機会ですので、京機会会員に非日常体験（普通のサラリーマン仲間では「行こか」とならないような）を味わってもらえる企画にしたいと考え、なんとか4回、その趣旨にそうように少々ノーマルなラインからはずれたコンセプトで開催してきました。

ビートルズナンバーを熱唱する会員

　今回は、ビートルズマニアのオーナーが実益無視・趣味のみでやっておられる北新地のダイニングバーOXYGENというお店に、ご夫婦3組を含む12名が集まりました。
金曜日の夜につき、他のお客様を排除するわけにはいかず、一般客混在

の中で、12 名の訳のわからない集団がミニステージのまん前の特等席スペースを占拠し、なおかつ、音大生のピアニストさんまで占有してビートルズを歌いまくろうという企画です。幹事は、ほんとに店のマネージャに追い出されないかひやひやしながらでしたが、ともかく静かにオープニング。

同好の集まりらしくまずは自己紹介し、乾杯。だれが口火を切るか。事前に「歌いたい」と申告をいただいていた田中氏（S45、軽音出身）が Michelle をさすが軽音出の高い表現力で歌いあげていただいたあとは、もう半自主的・半強制的に次から次にステージに出てビートルズの歌が繰り出し、心配したとおり、店中、京機会メンバーの歌と談笑の声が占拠してしまいました。幹事も調子にのって、ドラムやギターでメンバーさんの歌を後押し。もうさえぎるものはなにも無し状態に。最後は HEYJUDE を高橋夫妻（S56）のリードで全員合唱・合奏。MAX なボリュームに店員さんも降参、全員手拍子参加でいっしょになって最高潮に。

幹事の私も日常の仕事仲間では、ここまで盛り上がったことはありません。参加者みなさまから「ほんまに楽しかった。またやってー。恒例にして～」と店を出てからも北新地のど真ん中で大声で盛り上がりながら解散。

あまりの盛り上がりに、その夜は頭は空っぽに。次の日はウキウキ気分の余韻を残しながら不思議と頭と心がすっきり冴えわたってました。

３名の奥様方も、さすがに京機会メンバーの奥様です。男性会員以上に盛りあがっておられるのを見て驚きと感激を覚えたことを付け加えておきます。感謝・感謝です。

次回も、皆様の想像を裏切るような非日常体験を企画したいと思います

ビートルズマニアのオーナー(中央)を交えて

【随筆】

台湾の話

昭和 55 年卒　奥田　寛

台湾の「デルタ電子」という大手電気部品メーカーから「太陽光発電パネル設置事業」について我社に相談がありました。検討の結果、我社の受注にはいたりませんでしたが、私の属する阪急阪神グループ内の２社につなぐことができ、よかったと思っています。

さて、今回台湾の会社とお付き合いするに当たり、台湾の歴史について少し勉強してみました。従来から台湾には親日家が多いとは聞いていたのですが、その理由も分からず、昨今の中国の対日姿勢など、中国大陸にはまったく「親日」というものが感じられないのになぜ同じ漢民族の多い台湾人には「親日」の人が多いのか調べてみると、大変複雑な歴史があることが分かりました。もともと台湾という「島」は「国家」という体をなさず、複数の民族が住み、共通言語のない未開の地でした。東インド会社の拠点として一時期オランダの植民地になっていたようです。その後大陸の「清朝」の統治があり、日清戦争後「日本」の統治下になり、太平洋戦争の日本敗退で蒋介石率いる「中華民国」の統治下になり現在に至っています。ではなぜ親日家が多いのかというと、50 年間にわたる日本の統治下の間にいわゆるインフラ（鉄道、病院、学校、治水等）の整備、教育制度の確立を日本政府が行ったことが現在の台湾の経済的な発展の基礎になっているとの思いが台湾の人たちにはあるようです。日本が敗戦で引き上げた後、大陸から来た中華民国政府（蒋介石）に統治が変わると、大陸から来た「外省人」による政権下で「台湾人」が非常に抑圧されたことも「日本統治が懐かしい」との思いになっているようです。戦後の日本の教育では、日本の侵略を「悪」と決め付けていますが、台湾に関しては現地の考えは違っていたようです。

「李登輝」という名前は皆さんよくご存知と思います。そうです、台湾の元総督です。大陸から来た「外省人」が台湾統治のトップである「総督職」を受け継いできたのですが、１９９０年に初めて台湾出身の総督が誕生しました。それが「李登輝」です。李登輝氏は非常に「親日派」で、来日した際は必ず日本語でスピーチをするそうです。通常侵略されていた国の人が侵略者の言葉を使うことはありえません。ということは、「侵略されていた」という意識が皆無であることに他なりません。事実台湾にはいまだに「日本精神（リップチェンシン）」という日本を賞賛する言葉があるそうです。

先の東日本大震災に対して台湾からの義捐金が２００億円を超え、世界のどの

国より多い額であったのも親日である証拠だと思います。現在日本と台湾の国交はなくなりましたが、民間レベルでは深い交流があります。少しだけ台湾について勉強しただけですが、なんとなく親近感がわいてきました。

京岬会（昭和３３年卒）同窓会

2014 年 10 月 20 日「沼津のホテル」にて『第５６回の京岬会』を開催。
二次会では " 三途の川の渡り方 " の指南などあり、参加者１８人が大いに盛り上がった。
前日は「湯河原」にて『囲碁の大会』を開催。７人が自慢の腕を競った。
翌日は「新沼津 CC」にて『第６１回のゴルフコンペ』を開催。
写真は、スタート前の１２人の勇姿です。
プレー後、第 62 回は来月 25 日「彦根 CC」にて開催と決定。　（梅本　記）

【随時連載】

ロシアは今

久保　愛三　　昭和 41 年卒

この原稿は２０１４年１月に書いたものです。連載まで一寸、間が空いてしまったため、若干、現時点の状況にそぐわないところが出てきたのはお許し下さい。

第 15 話　イシェフスク機械製作工場　（その 2）

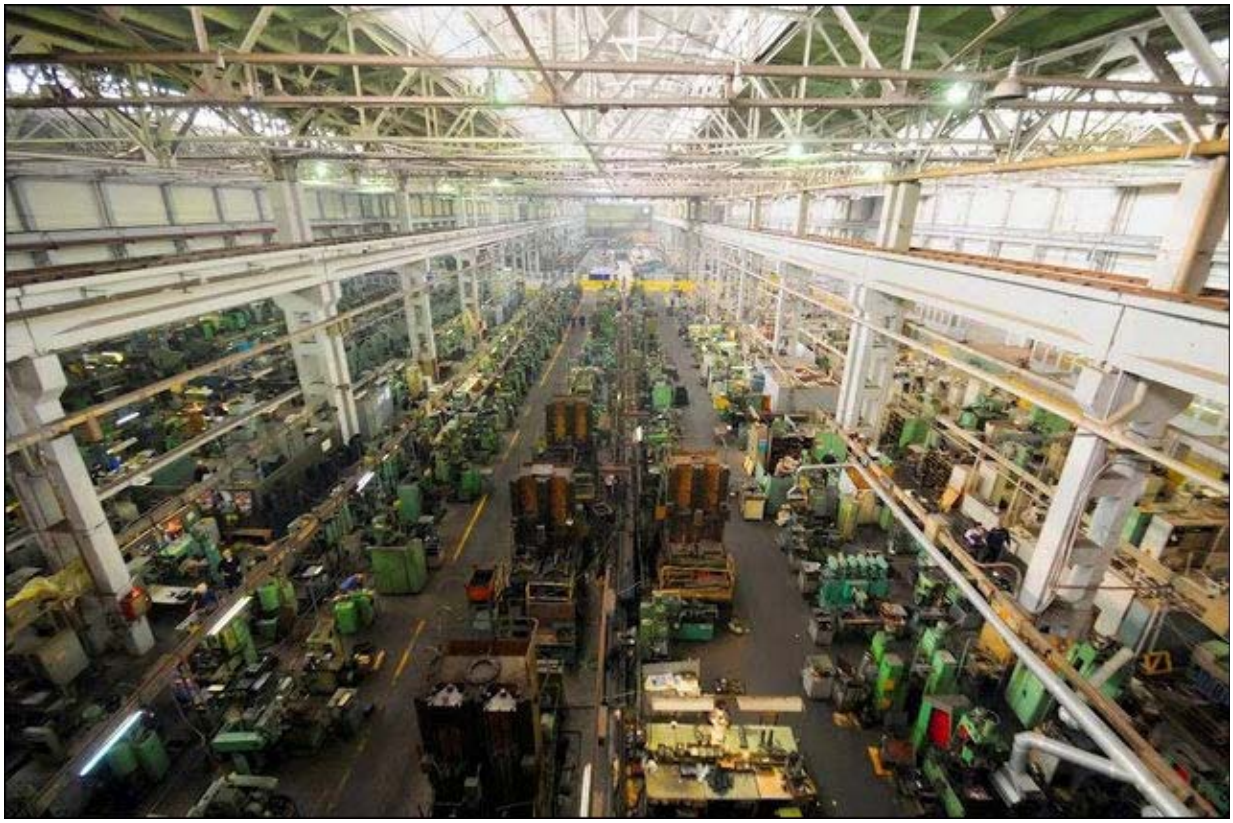
まだ、ネット情報を中心とした話のつづきです：　イズマッシュはかってロシアのライフル銃の 90％以上を生産していましたが昨年は約 8 千万ドル（約 65 億円）の赤字。生産量は売り上げベースで 45％も下落した上、ロシア軍が 2011 年の 9 月、「備蓄が過剰なため当分の間新しい小銃を購入しない」と発表し、すでにその時に財政は破綻寸前と言われていました。さらに起死回生策と思われた第 5 世代型自動小銃「AK-12」に対し、ロシア国防省が否定的な姿勢を見せたことが倒産への決定打になったという見方もあるようです。

92 歳のミハイル・カラシニコフとその他業界関係者 16 人が「敬愛すべきウラジーミル・ウラジーミロヴィチ（プーチン大統領のこと）、あなたに頼るしかありません」で始まる嘆願書を 2012 年 10 月 30 日にプーチン大統領に送っています。生産量が記録的な低水準に落ち込んでいるイズマッシュ社の窮状を訴える内容は、「偉大なる製造業の巨人」が危機的な状況にあること、何世代も続いてきた大工場がなくなるのは苦く屈辱であること、なによりイズマッシュ社に人生の多くをささげた OB たちのためにも工場を救って欲しい」というものです。月収が約 1 万ルーブル（約 2 万 5 千円）に満たないので「熟練工がどんどん転職し、抗議のデモが発生したことや、現在の経営陣による短期的戦略についての批判し、また狩猟用・スポーツ用銃器の生産が止まり、輸出契約が破棄された、国家との契約も絶望的であるのは明らかとなった」と製品開発・輸出戦略の滞りも指摘していたそうです。

経営管理も相当ずさんだった模様で、同社社員が薪として 20 ドルほどで横流しした木箱の中に、廃棄処分となるはずだった 79 丁もの AK-47 小銃とマガジン 253 個が混入しており、4 人が処分されるというような事故もあったらしいです。

そして、ソ連崩壊後の内需の急激な落ち込みに追随できず、海外からの受注を得るのも失敗、ということでその後は在庫ばかりが積みあがり 2012 年 4 月に財政破綻し、世界の自動小銃の中でもベストセラー中のベストセラーである AK シリーズを生産し続けてきたロシアの総合機械メーカー、イズマッシュ社が破産を宣告されました。

このような状況の中、イシェフスクは機械産業が盛んであった歴史のためか、今、日本をはじめ多くの西側企業がこの町に進出しようとしているようです。



http://dailynewsagency.com/2012/04/23/how-kalashnikov-guns-are-made-p2v/

　イシェフスク機械製作工場を救うことでロシアに恩を売り、同時にロシアでの乗用車の生産販売を確固とするために、ポンと100億ルーブル出したのが、カルロス・ゴーンちゃん。すごいですねー。そして、日産自動車・仏ルノー連合はロシアの自動車メーカー、イジアフト（イジェフスク自動車工場）を買収することで合意しました。その内容は、傘下に収めるロシア自動車最大手のアフトワズを合わせたロシアでの車両の年産能力が2016年以降に170万台以上にする予定とか。アフトワズが本社を置くサマラ州トリアッティに2011年2月に年産35万台の新工場を稼働し、モスクワ、サンクトペテルスブルク、イジェフスクの既存工場でも能力増強を計画しているそうです。ルノー・日産自動車アライアンスは、ロシア国営ロシアン・テクノロジーと合弁会社のアライアンス・ロステック・オートを設立し、ルノー・日産アライアンスは2014年半ばまでに計230億ルーブル（約624億円）を投じて、合弁会社の67.13%の株式を取得し、ロシアン・テクノロジーが32.87%を保有で、ラーダブランドの車両を生産するロシアの自動車最大手アフトワズの経営権を取得する予定とか。最終的に、アライアンス・ロステック・オートBVの出資比率は、ルノーが50.1%、日産自動車が17.03%、ロシアン・テクノロジーが 32.87%となるとの話もあります。そのため、合弁会社はアフトワズの株式74.5%を取得し、アフトワズの取締役会の議席数が従来の12人から15

人に拡大され、このうちルノー・日産アライアンスが 8 議席を獲得する、そして、ルノー・日産のカルロス　ゴーン最高経営責任者（CEO）が取締役会長に就任するとのこと。

　このように、ウドムルト共和国にあるイジェフスク自動車工場での日本車の生産スタートに向け、「ル　ノー・日産・アフトヴァズ」が協定に入っています。イジェフスク自動車工場は大規模な技術刷新を行い、ルノーと日産のプログラムにしたがって新型設備をそろえ、　日本の生産効果アップシステム「カイゼン」を積極的に導入し、これにのぞむらしい。　イジェ・アフトで生産されるものすべてが日産ないしルノー・ブランドの製品として出荷されるので、イジェ・アフト工場は 2013 年夏に、40 人以上の職員を組織して工場研修を実施し、役員のみならず、技術エンジニアも組立工、溶接工、検査係といった労働者も、2014 年にロシア生産が予定されている車種の組み立ての技術的プロセスを学び研鑽に励んだという。日本流の作業を開始するためでしょう。イジェ・アフトは発展プログラムの実現にむけ、労働者の受け入れを拡大する計画があり、生産台数は 2014 年の計画では 8 万台、2016 年には 30 万台にまで拡大するとのこと。年 30 万台の生産となれば、同工場はロシアでも最大級になります。　ヴォルガ川とウラル山脈に挟まれたこのウドムルト共和国の領内で現在、部材のサプライヤーの探求が行われているそうですが、自動車部品の現地調達率は最高で 60％まで保証せねばならないらしい。

　これらの話はネット情報なので、どこまで本当か？？？のところもありますが、まあ、グローバリゼーションですね。しかし、一般民生用の機械を作る工場を少し見てきた印象では、ロシア製の部品を、この現地調達率を達成するだけ使わねばならないのは、大変だろうなーと他人事ながら心配します。

http://ja.wikipedia.org/wiki/ イジェフスク機械製作工場、
http://japanese.ruvr.ru/2014_02_05/128326973/
http://japanese.ruvr.ru/2012_05_22/runou-nissan-afutowazu-ijefusukukikaiseisakukoujou-hyakuokuruuburu-toushi/
http://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/1212/13/news026.html
等のネット情報
http://itw.njolson.net/Spiroid/SpiroidAndHelicon.aspx

（つづく）

● 詳細はPDF版でご覧下さい。

１．円レートについて考える　伊藤元重　Nikkei BPnet

（1）今後の円レートはどちらに向かうのか　2014.8.5

http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20140804/410312/

（2）気になる米国金融政策の動向　2014.8.21

http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20140818/411704/

金利の動向が為替レートを動かす重要な要因であるのは、多くの人には自明のことだろう。日本の金利が下がれば、日本から海外に資金が出る力が強くなり、結果的に円安方向に為替レートが動く。米国の金利が上昇しても、同じようなことが起こる。この場合にも円からドルの方向により高い金利を求めて資金が動く力が強くなって、為替レートは円安（ドル高）の方向に動くのだ。

（3）物価と円レート　2014.9.1

http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20140818/411709/?ST=business&P=1

リーマンショックをきっかけにして、円レートは急速に円高に動いた。これが日本の輸出産業を直撃し、リーマンショック後の日本の成長率の落ち込みは、先進国の中で最悪のものとなった。

２．アベノミクスに4つの誤算、円安のデメリットが顕在化

河野龍太郎　BNPパリバ証券　2014.8.25　日経ビジネスOnline

http://business.nikkeibp.co.jp/article/interview/20140822/270195/?P=1

4～6月期の実質GDP（国内総生産）の成長率は年率でマイナス6.8%と大きく落ち込みました。消費の回復も遅れています。これまで消費増税の影響は「想定内」との見方が多かったですが、実は「想定外」のことが起きているのではないでしょうか。

３．なぜ、日本の輸出に対するネットワーク効果は小さいのか？　経済産業研

http://www.rieti.go.jp/jp/columns/a01_0404.html

経済的・社会的ネットワークが、国際貿易の重要なドライバーであることは、良く知られている。これまで国内で構築されてきたネットワークは、海外直接投資や労働の越境移動を通して、国際的に拡大している。こうした国境を越えたネットワークは、インフォーマルな貿易障壁（契約の不履行や国際商取引に関する情報不足など）を取り除き、国際貿易を促進する上で重要な役割を果たしている。

４．平成２５年度総合調査研究　2014.2.14　帝国データバンク

（国際分業下における日本の企業行動と産業構造に関する調査研究）

http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2014fy/E004422.pdf
本調査では、既存の調査・研究の成果を踏まえつつ、以下の点を明らかにする：①日本企業のグローバル化の実態、②日本企業のグローバル化が国内企業の生産性へ与える効果、③分析結果を踏まえて、成長戦略で掲げられている「実質経済成長率 2％（平均年率）」に国際展開戦略が生産性効果を通じてどれだけ貢献しうるか。

５．震災以来のマイナス成長で顕在化した消費と輸出の弱さ

http://diamond.jp/articles/-/57892　　2014.8.20　DIAMOND Online
4 月の消費税率引き上げ後、財布の中のお金の減りが早くなったと実感している人は少なくないはずだ。8 月 13 日に発表された 2014 年 4 ～ 6 月期の実質国内総生産（ＧＤＰ）速報値は、6.8％の大幅なマイナス（前期比年率、以下同）となった。

６．新興国・途上国の輸入市場における日本のプレゼンス変化

―日中韓のシェアの比較から―　　日本総研
http://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/rim/pdf/7560.pdf
本稿は、新興国・途上国の輸入市場の現状を踏まえ、わが国のプレゼンスの変化、その特徴と課題を整理するものである。　わが国の新興国・途上国向け輸出は金額では増加しているものの、その輸入市場拡大の効果を十分に吸収しているとはいえない。とくに価格競争力の高い中国製品と厳しい競合関係にある製品については、ASEAN などで生産・輸出する体制をより強化する必要がある。また、日本の競争力があるといわれる資本財や中間財・部品でも優位性を失いつつある点は軽視してはならない。品質の向上に加えて、市場開拓と確保に向けてマーケティングを強化する必要がある。

７．着実に拡大するアジアからの対日直接投資　　日本総研

http://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/rim/pdf/7561.pdf
日本では、これまで対内直接投資はアメリカおよび欧州からが中心であり、現在も投資残高の８割弱を欧米が占めている。しかし、2010 年以降、欧米からの投資が低調ななかで、アジアからの投資が堅調を維持している。　中長期的にみた理想的な姿として、日本でアジア系企業の集積が進むと、日本がアジアへのゲートウェイとしての地位を確立し、結果として欧米からの投資も惹きつけることが展望出来る。もっとも、アジアからの直接投資の拡大がこうした効果をもたらすに至るまでには極めて険しい道のりとなることを覚悟しなければならない。日本の事業環境を大胆に改善したうえで、アジア系企業の誘致に向けたきめ細かな取り組みが必要となろう。

８．米国：試練に直面するオバマ政権　　2014.08.12　三井物産戦略研
http://mitsui.mgssi.com/issues/report/d_r1408k_katanowada.html

９．日本を国際ビジネス循環の基点に
ジェトロ世界貿易投資報告　2014 年版　　JETRO
http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/
ポイント・解説資料を読む（記者発表）
http://www.jetro.go.jp/news/releases/20140807062-news
第 1 部　総論編
I. 世界経済・貿易・直接投資の現状
http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/pdf/2014-1.pdf
1. 世界経済の現状と課題
2. 世界と日本の貿易
3. 世界と日本の直接投資
II. 世界の貿易ルール形成の動向
http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/pdf/2014-2.pdf
1. 世界と日本の FTA の現状と展望
2. 多国間貿易ルールの必要性と課題
III. 日本を国際ビジネス循環の基点に
http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/pdf/2014-3.pdf
1. 日本企業の海外市場開拓
2. 新興国のビジネス環境
3. 対日投資などインバウント拡大に向けて
4. 日本と日本企業のさらなるグローバル化に向けた課題
IV. 日本を国際ビジネス循環の基点に（結語）
http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/pdf/2014-4.pdf
資料　世界と日本の貿易投資統計
http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/pdf/2014-5.pdf
表 1　国・地域別 GDP 伸び率の推移
表 2　世界貿易マトリクス・輸出額（2013 年）
表 3　世界の国・地域別輸出入（2013 年）
表 4　世界の商品別輸出入（2013 年）
表 5　2013 年の主要国・地域の直接投資＜国際収支ベース、ネット、フロー＞
表 6　世界のクロスボーダー M&A（被買収国・地域別、買収国・地域別）
表 7　世界のクロスボーダー M&A（業種別）
表 8　世界のクロスボーダー M&A 上位 10 件（2009 年～ 2014 年 6 月）

表 9　日本の国・地域別輸出入
表 10　日本の商品別輸出（2013 年）
表 11　日本の商品別輸入（2013 年）
表 12　日本の国・地域別対外・対内直接投資＜国際収支ベース、ネット、フロー＞
表 13　日本の業種別対外・対内直接投資＜国際収支ベース、ネット、フロー＞
表 14　日本のクロスボーダー M&A 上位 5 件（2009 年～ 2014 年 6 月）
表 15　日本の国・地域別対外・対内直接投資残高
表 16　世界の FTA 一覧（264 件）
※ 57 カ国・地域の経済、貿易、投資動向の詳細な分析を行う

１０．欧州企業のアジアビジネス戦略（2014 年 1 月～ 6 月報告）　2014.8JETRO
http://www.jetro.go.jp/world/asia/reports/07001800
　アジア市場では、各産業分野において欧州企業が日本企業の競合相手になる場合がある。農林水産・食品・飲料、化学・医薬品、医療機器、自動車、産業機械・エンジニアリング、環境・エネルギー、家庭用品・生活雑貨など多岐にわたる欧州企業のアジア市場での主な動きをまとめた。様々な分野において、研究開発拠点の設置・強化などアジア市場開拓への取り組みを強化する動きがみられた。
欧州企業のアジアビジネス戦略（2014 年 1 月～ 6 月報告）
　http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07001800/07001800.pdf

１１．アジア企業の欧州ビジネス戦略（2014 年 1 月～ 6 月報告）2014.8　JETRO
http://www.jetro.go.jp/world/asia/reports/07001806
　欧州市場では、昨今、中国や韓国を中心とするアジア企業の活動が活発化しており、一部では日本企業との競合関係もある。電気・電子・精密、自動車、建設・サービスなどの分野で活発な中・韓・インドなどアジア企業の設備増強、欧州企業との連携、販売強化などの動きがみられる。主な事例をまとめた。
アジア企業の欧州ビジネス戦略（2014 年 1 月～ 6 月報告）
　http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07001806/07001806.pdf

１２．珠江デルタ進出日系企業の対 ASEAN 事業戦略　2014.7　JETRO
http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/reports/07001796
　日本企業による中国から ASEAN への投資先のシフトが顕著となっている中、ASEAN に近接し、世界最大の部品産業の集積地である広東省・珠江デルタは、その国境を越えた産業立地再編の中心に位置する。ASEAN 中国自由貿易協定（ACFTA）の進展による関税削減、物流サービスの拡充や輸送インフラの整備の進展を受け、珠江デルタ地域と ASEAN とのビジネスコスト、距離が大幅に短縮され

ていることが背景にある。珠江デルタからASEANへの生産移管や両地域間での国際分業が進展する状況下、珠江デルタに拠点を有する日系企業は、市場として、もしくは生産シフト先としてのASEANをどのように評価しているのか、また相互補完的なサプライチェーンを構築する上でのメリットと課題にはどのようなものがあるのか、進出日系企業へのインタビューなどを基に報告する。
主な図表：日本の中国、ASEAN直接投資額（国際収支ベース）、海外での機能拡大、再編状況の概要　、中国を移管元とする拠点・機能再編の移管先の内訳（国別）、日系企業の平均賃金：製造業作業員（実務経験3年程度、正社員）、在中国日系企業の事業方針（輸出比率別）、中国の対ASEAN輸出・入および貿易収支の推移、珠江デルタ地域〔注〕からの対ベトナム輸出上位5品目等
珠江デルタ進出日系企業の対ASEAN事業戦略
http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07001796/07001796.pdf

１３．新興国経済の実情及び成長方向性にかかる調査・分析　2014.3
http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2014fy/E004227.pdf　大和総研

第1章　調査対象19ヵ国の概要
第2章　各国編　1．ラオス　2．カンボジア　3．パキスタン
4．バングラデシュ　5．スリランカ　6．ロシア
7．カザフスタン　8．ウクライナ　9．エジプト
10．トルコ　11．オマーン　12．イラン
13．モロッコ　14．ナイジェリア　15．エチオピア
16．アンゴラ　17．ガーナ　18．ジンバブエ
19．モザンビーク
第3章　トピックス
1．中国の動向
2．周辺地域への事業展開の現状と可能性

１４．ASEAN市場開拓のポイント　- 中小企業の取り組み事例にみる -
2014.7　JETRO
http://www.jetro.go.jp/world/asia/reports/07001814

約6億人の人口を擁するASEAN諸国は高成長により、購買力を持った中間層・富裕層が拡大しつつある成長著しい消費市場として注目を集めている。ジェトロは、政府の推進するクール・ジャパン戦略の一環として、2012年度よりASEAN諸国におけるわが国中小企業の販路開拓を支援する「ASEAN・キャラバン事業」を実施している。2年目となる2013年度は、前回のマレーシア・クアラルンプールとタイ・バンコクに加え、シンガポールおよびインドネシア・ジャカルタの四都市に拡大して開催。好調な経済成長に裏打ちされたマーケットの伸びに商機を見

出そうと、全国25都府県から83社（前回57社）の日用品・生活雑貨やインテリア、建材メーカーが参加した。

　このたびジェトロでは、2013年度のASEANキャラバン事業に参加した企業の中から20社を対象に、ASEAN市場開拓の現状、市場開拓にあたっての課題や留意点、今後の方向性などについてインタビューを実施した。本報告書は、各社へのインタビューを通じて明らかになったASEAN市場開拓における課題や留意点を分析するとともに、各社の取り組みをケーススタディーとしてまとめた。

ASEAN市場開拓のポイント - 中小企業の取り組み事例にみる -

http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07001814/07001814a.pdf